

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.102 - 2017年6月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



この3月、ヤパカライ（パラグアイ）はラテン・アメリカの南米サウスコーン地域 Team Visitの主催管区になりました。そのプログラムは、我らがサレジオ会宣教師、ドン・ロドルフォ・ルンケンバインの赤い血の兄弟的記憶に彩られました。その殉教（1976年7月15日、ブラジルのメルリで）に至るまで、若い忠実な協力者、シモーネ・ポロロがドン・ロドルフォと行動を共にしていました。40年がたち、二人の殉教を認証するための調査が始まりました。「ロドルフォとシモーネ、命を与えるために命をささげた!」この調査開始にあたって作曲された歌の力強い歌詞です。この歌は南米のサレジオ会各管区で人気の歌になっています。多くの人が私たちの前を歩きました。彼らは種を蒔き、自らの血と汗でうるおしました。サレジオのカリスマのうちに受肉した、イエス・キリストにおける新しい命の種を育むためです。その人々の記憶を保つことは、サレジオ会の宣教精神を生かしつづけることを意味します。

彼らも、サレジオ宣教の日2017のテーマのように「私たちのもとに留まった!」のです。ドン・ボスコは今も、あらゆる大陸の実に多くの若いサレジオ会員の心の扉をたたいています。Ad vitamいつまでも「彼らと共に留まる」ために……すべてを後にして出かけて行く準備のできた、心の扉を!

*J. Basanes*

宣教顧問

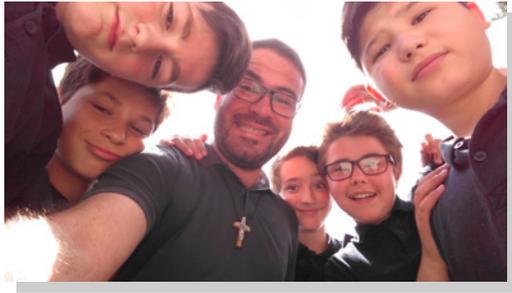
ギジェルモ・バサニェス神父

## 第一次福音宣教を生き、告げ知らせること

4 月23日から31日にかけて、アメリカ大陸のサレジオ会宣教師たちがカショエイラ・ド・カンポ（ブラジル、ペロリゾンテ管区）に集いました。サレジオ・ミッションのさまざまな部門や置かれた環境で、イエス・キリストの第一次福音宣教を生き、告げ知らせる具体的方法を見いだすためです。アメリカ大陸各地から集まった72名のサレジオ会員とサレジアン・シスターズが共にこのテーマを考察しました。この数年にわたり世界各地で行われてきた8つの地域ごとのセミナーの結果の総合は、参加者たちに光を与えてくれました。予防教育法の豊かさと共に、サレジオの環境の外における第一次福音宣教のそのほかの司牧体験についても振り返りました。参加者はいくつかのワークショップでそれぞれの具体的体験を分かち合いました。それぞれの管区の活性化のため規準について考察し、何をを行うかを選択しました。学校やユースセンター、都会の小教区、福祉事業、先住民族の共同体、危険にさらされた子どもや十代の若者たちの間で第一次福音宣教の道具となるための、創意工夫に満ちたさまざまな方法が提案されました。こういった作業が、神のみ言葉の振り返りを通しての豊かな霊的空気の中で行われました。参加者はサレジオ家族の精神を豊かに味わいました。各DIAM（サレジオ会宣教促進担当者）、各宣教活性化コーディネーター（FMA）は、セミナーや実践の方法を実施に移す計画を立てました。主の72人の弟子たちのように（ルカ10・1）、このサレジオ会員たち、サレジアン・シスターズは、アメリカ合衆国からチリに至るすべての管区に遣わされました。サレジオのあらゆる現場で良い知らせを告げるために。



## 主に仕える喜び



ここだけでもこれほどたくさんすることがあるのに？」確かにそうです。することはたくさんあります。しかし、全世界に広がる会が一つだということも確かです。どこでも、若者、そして兄弟会員たちが私たちを待っています。ぶどう畑が主のものであるなら、働き手の配置を考えるのは主であるはずで、私たちは、主に求められることを行うのです。主が与えてくださる愛をもって、主が願ひ、遣わされる所で、それに、と私は思いました……もし最初のサレジオ会員たちがさらに先へと歩み出すために、持っているものを賭けるリスクを負わなかったとしたら、私たちはどうして神を、ドン・ボスコを、自分たちの召命を知ることができたでしょう？

私は神に仕えたいという望みに駆り立てられ、呼びかけに応え、2015年、アルバニアのコソボに派遣されました。そこで、全く予想しなかった現実に直面しました。私は信者であふれかえる教会のある宣教地を思い描くことに慣れていました。完全にイスラム教の村に赴くことになるとは、想像していなかったのです。その村で、私は宣教師であることの喜びを2人の兄弟会員と18人の信者と分かち合うことになりました！

最初の困難は、それまでに抱えてきた宣教地のイメージを捨てることでした。主が差し出しておられるものを理解するように努めなければなりません。それに加え、言葉の難しさ、イスラム教に対する自分の無知がありました。私は本物の挑戦に直面していました。兄弟姉妹の助けがあってはじめて、私は理解し前進する勇気を与えられました。それ以来、まわりの少年たちのうちにおられる神の現存に驚かされ、どれほどの喜びを見いだしたことでしょう。彼らの質問、共に話し合ったこと、互いに耳を傾け合ったことは、今日、私の心の喜びになっています。彼らは、宣教師の召命をくださったことへの私の神への感謝です。いつまでもそうであると思います。宣教師であることの最も素晴らしい祝福は若者と兄弟会員だということです。

宣教師であることは、私たちサレジオ会員のDNAに組み込まれていると私は思います。少年たちと出会うために街へ出ること、神への愛のために自分の国を後にすることによって、私たちの召命は大きく豊かにされるのです。神の夢を自らの夢に、神の子どもたちを自らの子どもたちに、神の呼びかけを自らの人生とすると、私たちは人生を満ち満ちて生きるようになるでしょう。ですから、もし宣教師になることを神が望んでおられるなら、神の愛に導かれ、どこでも、若者たちがあなたを待っているところへ遣わされるよう心を開いてください。保証します。人生にそれ以上の大きな喜びはないでしょう！

グアテマラ出身、アルバニア・コソボの宣教師  
ジュゼッペ・リアノ



# 私

はいつも宣教師の話に魅了されてきました。グアテマラの宣教地での何度かの体験の後、ポストノビスの時、私は「宣教疲れ」を経験しました。このことについて、自分の霊的指導者、聴罪司祭、特に宣教師たちに話しました。結局のところ、その宣教師たちもある時点で同じ悩みを経験していて、今は私たちの管区で宣教のカリスマを担っているのです。何よりも、私は祈りました。聖櫃の前にひざまずきました。指でロザリオの珠を繰りながら、呼びかけがはっきりわかるように、応える勇気を、それを実現する愛を主に願いました。

私の心にいちばん強い印象を残したのはドン・チェッキの勧めでした。ドン・チェッキは微笑みながら言いました。「愛する子よ、もし神のみ手にもう自分の命を置いたのなら……神の夢を楽しみなさい。運転は神に任せなさい。神が君のためと思われた子どもたちの元へ導いていただきなさい。神の声に心躍らせなさい。君の人生のために神が計画されたことを愛しなさい。保証するよ。神に信頼してよかったと君は喜ぶだろう。」

会員の中にはもっと合理的な兄弟もいました。彼らは言いました。「どうして出て行くの？

## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父



神の僕マティルド・サレム（1904 - 1961）は困難な結婚生活を送りました。神が許されたさまざまな試練の中には子宝に恵まれないこともあり、孤児や助けを必要とする人々への奉仕のなかでマティルドの母性は花開きました。「この子どもたちはいつまでも私の子です、生きている間、主が出会わせてくださるほかのすべての子どもたちも。」マティルドは、サレジオ会がアレppo（シリア）に家を開設できるよう休みなく働きました。54歳のときに重い腫瘍に侵されたマティルドは、最高のささげものとして自らの命をささげました。「わが神よ、キリスト者の一致のため、司祭の聖化のため、サレジオ会事業の発展のためにこの命をささげます。」



## サレジオ会の宣教の意向

紛争地域で働くサレジオ会員のために

「教育」という武器によって、そして「平和の王」を告げ知らせることによって平和の建設者となれますように。

サレジオ会は、軍事的、社会的、政治的、民族的、宗教的な対立のある世界の多くの地域で働いています。その対立は、商業的、経済的な利害によってしばしば操作されています。その利害は、無実な人々、最も弱い人々を全く顧みません。これらの地域におけるサレジオ会員の使命は、共存と人間の尊厳を教える教育を粘り強く行い、「私たちの平和である」方に支えられ、自由であること、預言者、平和の建設者であることです。

